

瀬戸市地域公共交通網形成計画の一部見直しについて

1 運行見直しの経緯等

現在市内基幹バスしなの線及び赤津線については、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）の認定を受けているが、国土交通省にて地域公共交通確保維持改善事業費補助金の補助要件が変更されたことに伴い、令和7年事業年度（令和6年10月1日～令和7年9月30日）までに瀬戸市地域公共交通網形成計画内で市内公共交通それぞれの位置付けや補助事業活用の必要性を記載することが必要となった。

そこで、今後も補助事業を活用するため瀬戸市公共交通網形成計画を一部見直すもの。

2 一部見直しの対象について

- (1) 市内公共交通各路線の位置付け及び役割の明示
- (2) 地域公共交通確保維持事業の必要性の記載
- (3) 公共交通の目標の数値指標における具体的なデータ取得手法の記載

3 見直しの時期

- (1) 時期

令和6年2月1日（木）

- (2) 理由

地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）の補助要件に合った内容に速やかに見直すもの。

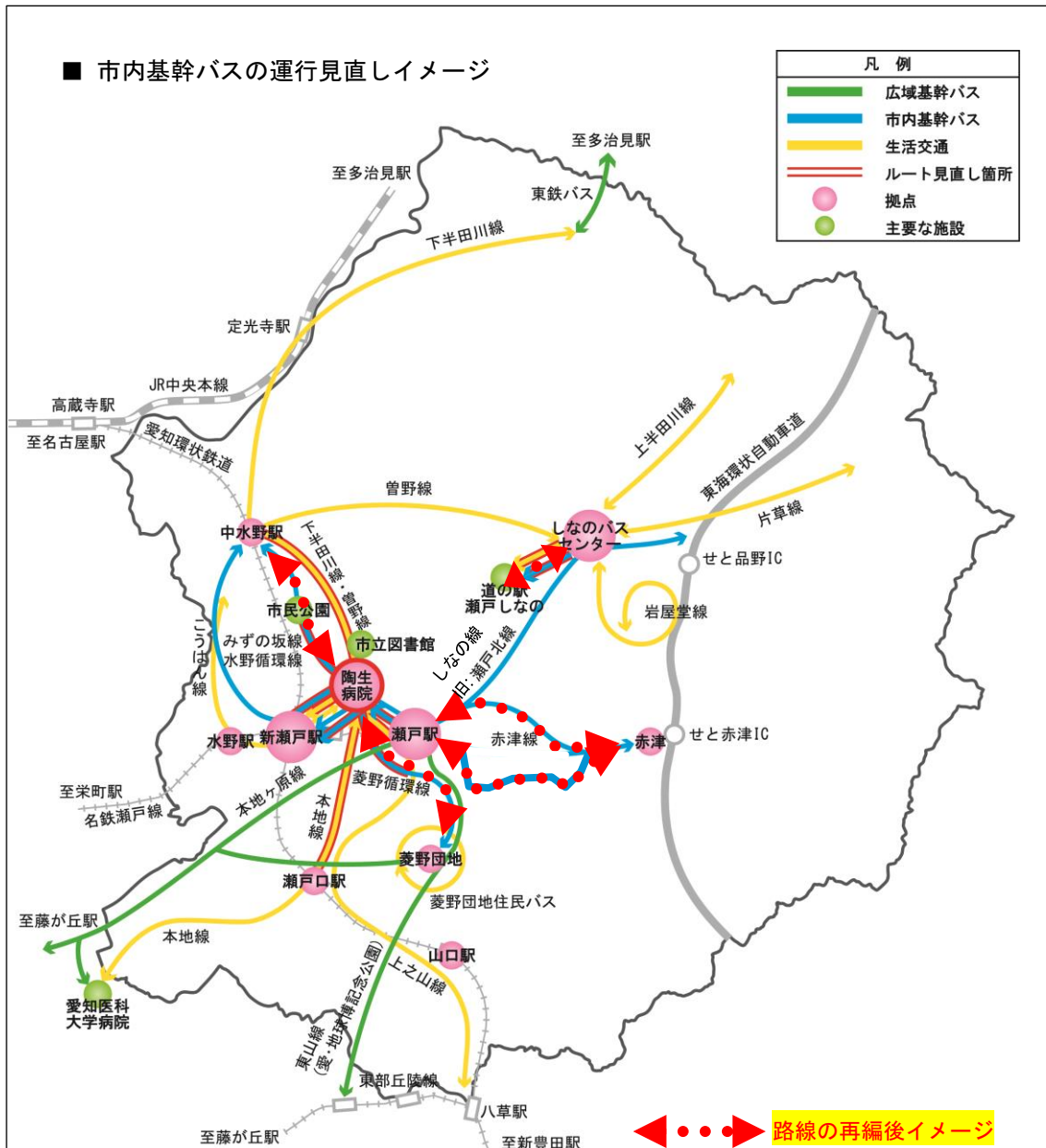
f 市内基幹バスの運行維持・見直し

広域基幹バスと連携して通勤・通学や観光・まちづくりなどにおける利便性の向上を図るため、市内拠点間の交通ネットワークを形成する基幹バスの運行を維持します。

利用実態や人口・土地利用動向、生活利便施設の立地状況などに応じた運行経路やバス停間隔・名称の見直し、鉄道や他のバスとの円滑な乗継を可能とするダイヤ調整等を行い、利便性の向上を図ります。

<実施内容>

- ・路線名の見直し（瀬戸北線をしなの線へ名称変更（本頁以降しなの線（旧瀬戸北線）と表す））
- ・陶生病院バスロータリーへの乗り入れ（しなの線（旧瀬戸北線）、みずの坂線・水野循環線、菱野循環線）
- ・まちづくり、観光振興における運行経路の見直し、道の駅瀬戸しなの乗入検討（しなの線（旧瀬戸北線））
- ・小中一貫校開校における運行の見直し（赤津線）
- ・運行経路の見直し、市民公園前バス停の移設（みずの坂線・水野循環線）



赤津線、しなの線（旧瀬戸北線）は地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用

各路線系統の位置付けと役割（広域基幹バス、市内基幹バス）

位置付け	路線名・系統	実施主体	起点	経由地	終点	役割	確保・維持策	
広域基幹バス	本地ヶ原線※ ¹	名鉄バス	名鉄バスセンター		瀬戸駅前	隣接市の都市拠点との広域交通を担う。	①	
			名鉄バスセンター		菱野団地		①	
			藤が丘	愛知医大病院	瀬戸駅前		②	
	東山線	名鉄バス	藤が丘		瀬戸駅前			①
			藤が丘		菱野団地			
			瀬戸駅前		愛・地球博記念公園駅			
	下半田川線	東鉄バス	下半田川		多治見駅前			①
市内基幹バス	しなの線※ ² (旧瀬戸北線)	名鉄バス	上品野	しなのバスセンター	新瀬戸駅	主に尾張瀬戸駅を発着地として、市内拠点間を連絡する。	①	
			上品野	しなのバスセンター	瀬戸駅		②	
	赤津線※ ³	名鉄バス	赤津	にじの丘学園	瀬戸駅前		①	
			赤津	古瀬戸	瀬戸駅前		②	
			赤津	一里塚	瀬戸駅前			
	東山線	名鉄バス	菱野団地		新瀬戸駅			①
	水野循環線	名鉄バス	陶生病院	中水野駅	陶生病院		愛知環状鉄道・名鉄	①
みずの坂線	名鉄バス	中水野駅	新瀬戸駅	陶生病院	瀬戸線等の市内拠点間を連絡する。	①		

上記路線・系統については全て道路運送法第4条（路線定期運行）

確保・維持策の凡例

- ①交通事業者と連携し、一定以上の需要を確保する
- ②地域公共交通確保維持改善事業（国庫補助金）を活用し持続可能な運行を目指す

※1は地域間幹線系統国庫補助金の対象（対象系統は瀬戸駅～愛知医大病院～藤が丘）

※2は地域内フィーダー系統国庫補助金の対象（対象系統は上品野～しなのバスセンター～瀬戸駅）

※3は地域内フィーダー系統国庫補助金の対象（対象系統は赤津～古瀬戸～瀬戸駅、赤津～一里塚～瀬戸駅）

地域公共交通確保維持改善事業の必要性

市内基幹バスのうち名鉄バスしなの線（旧瀬戸北線）・赤津線については、地域公共交通確保維持改善事業の認定を受けて運行している路線である。しなの線（旧瀬戸北線）は、地域から尾張瀬戸駅や陶生病院、赤津線は、地域から尾張瀬戸駅に通じている路線であり、主に通学・通勤、通院、買い物など生活に必要な移動手段として利用され、地域住民にとって必要不可欠な役割を担っている路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しいため、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。

各路線系統の位置付けと役割（生活交通）

位置付け	路線名・系統	実施主体	起点	経由地	終点	役割	確保・維持策
生活交通	下半田川線	瀬戸市 (運行は 交通事業者へ 委託)	妻之神	中水野駅	陶生病院	市内各地域を運行し、生活利便施設や公共交通結節点に接続する。	①
	曾野線		しなのバスセンター	中水野駅	新瀬戸駅		
	上半田川線		上半田川転回場	しなのバスセンター	道の駅瀬戸しなの		
	片草線		片草町民会館	しなのバスセンター	道の駅瀬戸しなの		
	岩屋堂線		道の駅瀬戸しなの	【循環】	道の駅瀬戸しなの		
	本地線		愛知医大	瀬戸口駅	陶生病院		
	上之山線		八草駅	瀬戸口駅	瀬戸駅前		
	こうはん線		イオン瀬戸みずの店	新瀬戸駅	陶生病院		
菱野団地住民バス	菱野団地コミュニティ交通運行協議会	八幡台西	【循環】	八幡台西	団地内に限った生活交通を確保し、生活利便施設や既存交通機関に接続する。	①	

菱野団地住民バス以外の上記路線・系統については全て道路運送法第4条（路線定期運行）

菱野団地住民バスについては無料運行（道路運送法上、許可または登録を要しない運行形態）

確保・維持策の凡例

①交通事業者と連携し、一定以上の需要を確保する

2. 数値指標の考え方

指標① 公共交通の満足度

指標①は、市民アンケートにより公共交通が日常生活を送るうえで満足できる交通手段だと思「思う」及び「やや思う」の割合を表しています。

目標値は、第6次瀬戸市総合計画における指標を参考に、60%を目指すものとします。

指標	現状値 (2016年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
公共交通の満足度	48.6%	55%	60%

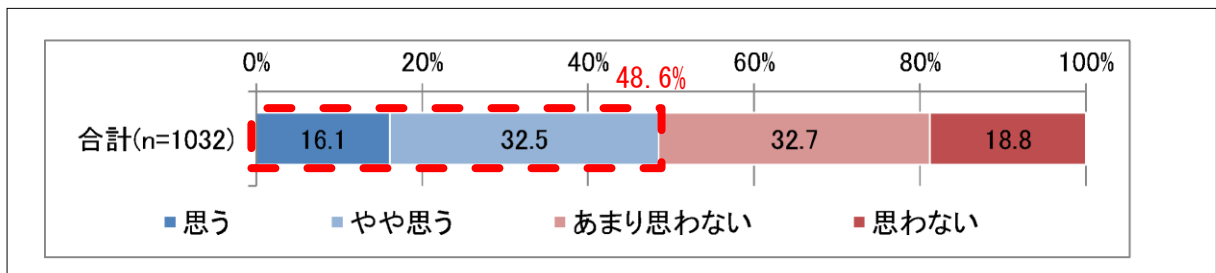


図 公共交通に対する満足度 (無回答を除く)

データ取得方法：瀬戸市公共交通に関する市民アンケート

指標② 鉄道の利用者数

指標②は、第6次瀬戸市総合計画における指標である年間の駅利用者数を表しています。

目標値は、第6次瀬戸市総合計画で目標としている将来人口の推移を踏まえたうえで、直近2年間の増加率を参考に年間の駅利用者数を設定します。

指標	現状値 (2017年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
年間の駅利用者数	7,921,576人	8,076,000人	8,141,000人

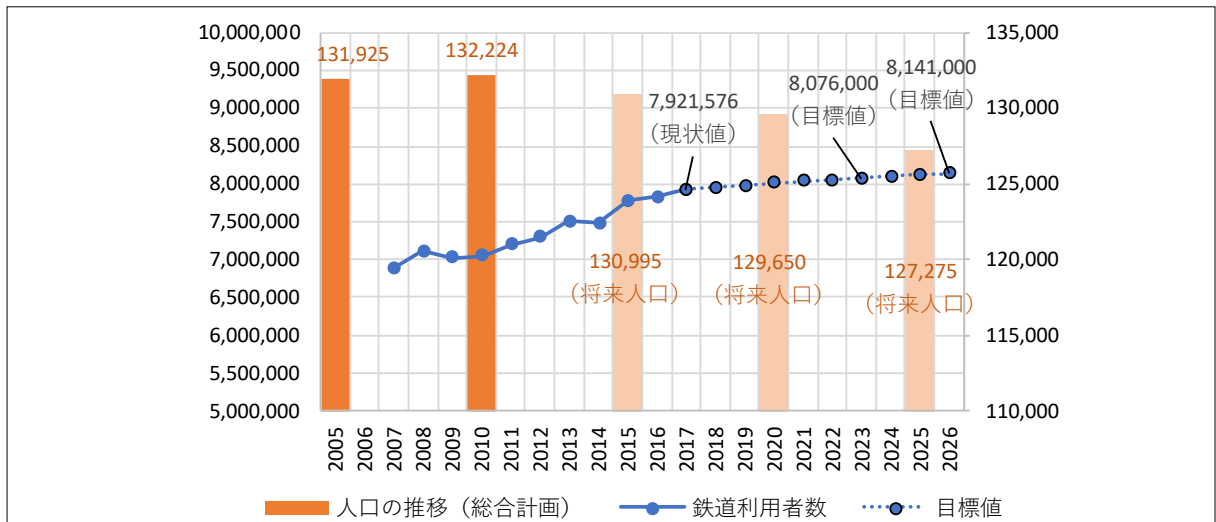


図 年間の駅利用者数

データ取得方法：鉄道事業者の輸送実績

指標③ 公共交通 300m圏人口カバー率

指標③は、人口減少や高齢化が進展する社会状況の中、鉄道駅もバス停とともに300m圏で人口カバー率を算出する新たな指標となります。

目標値は、多極ネットワーク型コンパクト構造を目指し、拠点周辺の公共交通空白地域を解消し、90%を目指すものとします。

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
公共交通300m圏人口カバー率（市全域）	87%	90%	90%

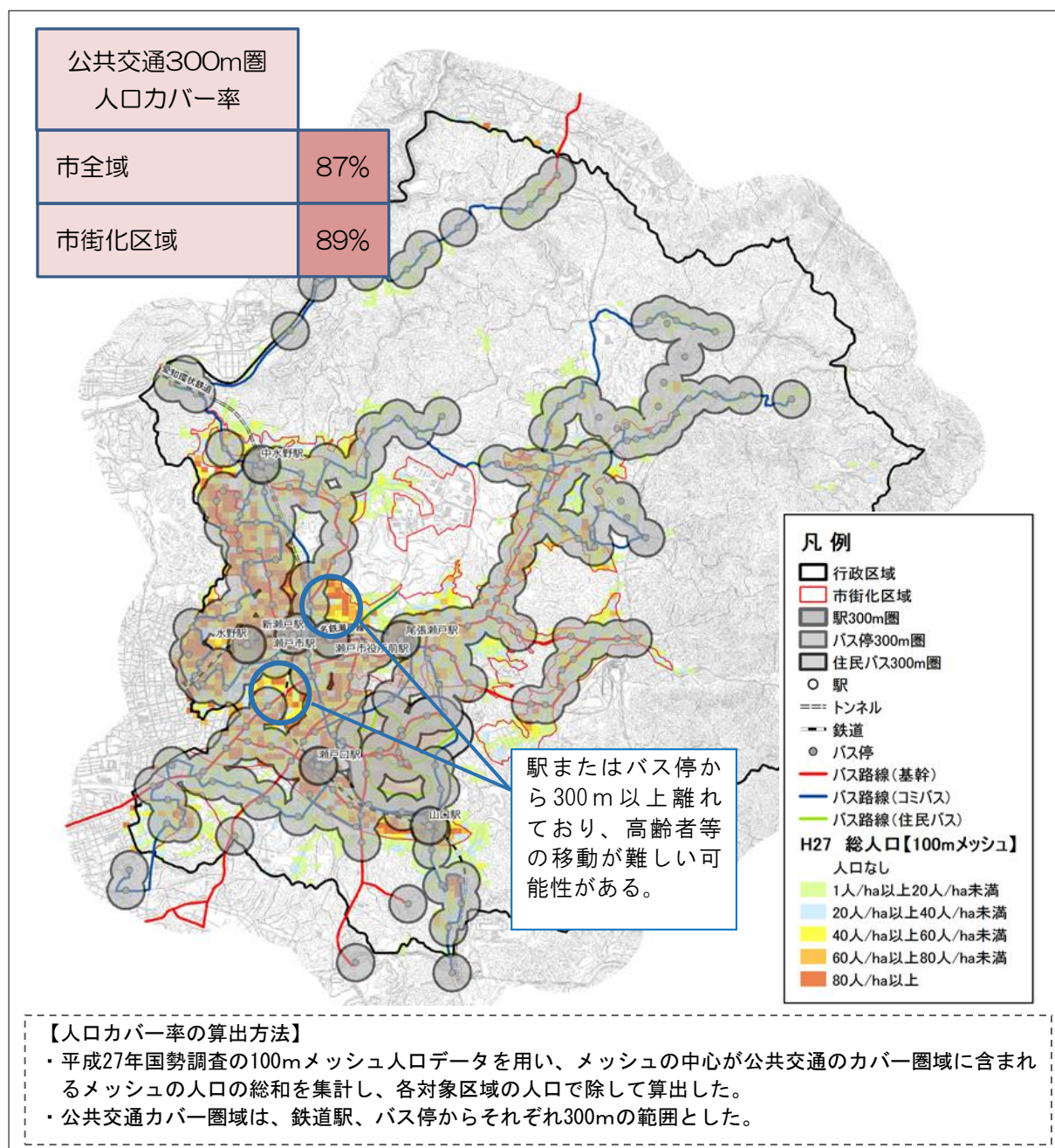


図 公共交通300mカバー圏域

データ取得方法 : 国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

指標④ 市内基幹バスの収支率・利用者数

指標④は、持続可能な公共交通を形成するために、運行経費や運送収入等による市内基幹バスの収支率と利用者数を指標としています。

目標値は、沿線地域の人口減少を踏まえ、現状維持を目指します。

(1) 収支率

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
市内基幹バス収支率	53.5%	54%	54%

※赤字分については、市にて補填

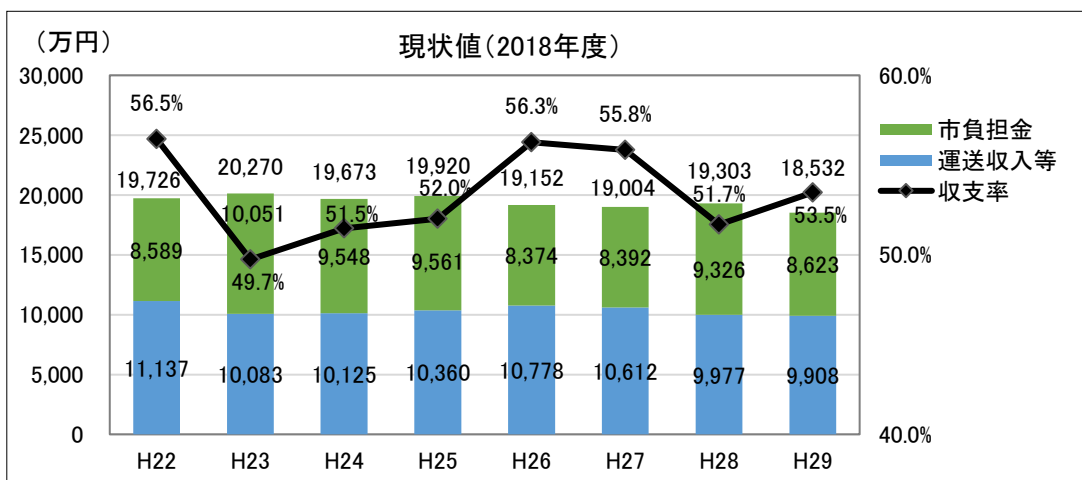


図 市内基幹バスの収支の状況の推移 (再掲)

データ取得方法：瀬戸市の財政状況及び交通事業者の輸送実績

※(1) 収支率における市内基幹バスは、しなの線(旧瀬戸北線)、水野循環線・みずの坂線、赤津線を対象とします。

(2) 利用者数

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
市内基幹バス利用者数	708,524人	708,500人	708,500人

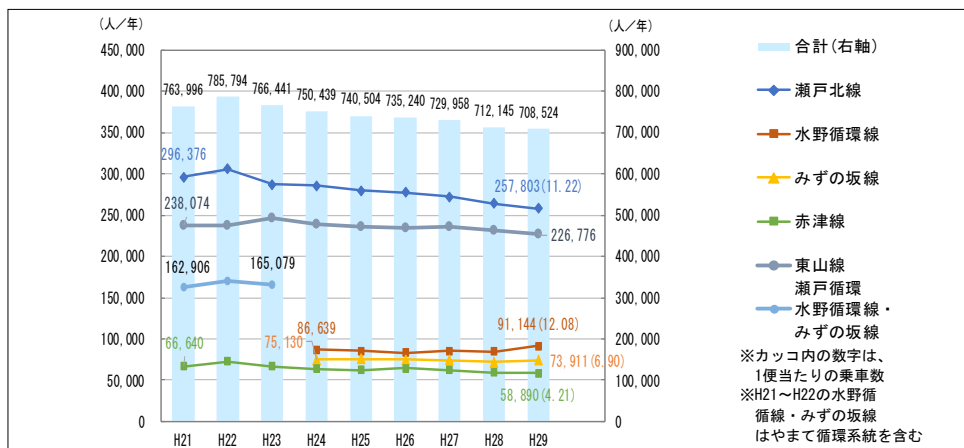


図 市内基幹バスの利用者数の推移 (再掲)

データ取得方法：交通事業者の輸送実績

指標⑤ コミュニティバスの収支率・利用者数

指標⑤は、持続可能な公共交通を形成するために、運行経費や運送収入等によるコミュニティバスの収支率と利用者数を指標としています。

目標値は、沿線地域の人口減少を踏まえ、収支率、利用者数ともに現状維持を目指します。ただし収支率については、収支率が比較的低い路線もあるため、拠点周辺、郊外部ごとの目標も設定します。

(1) 収支率

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
コミュニティバス収支率	14.7%	15%	15%
拠点周辺の収支率	維持		維持
郊外部の収支率	向上		維持

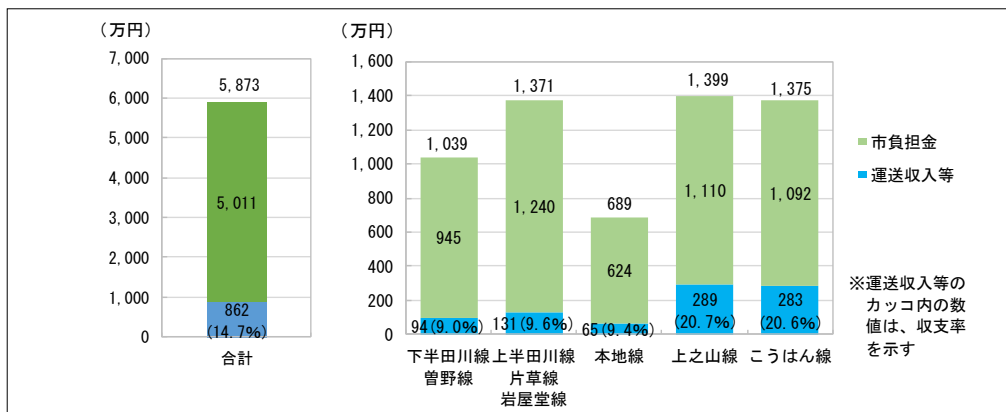


図 コミュニティバスの収支の状況

(平成29年度の路線別運行経費の内訳) (再掲)

データ取得方法：瀬戸市の財政状況及び交通事業者の輸送実績

※拠点周辺の路線は、上之山線、こうはん線とします。

※郊外部の路線は、下半田川線、曾野線、上半田川線、片草線、岩屋堂線、本地線とします。

(2) 利用者数

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
コミュニティバス利用者数	93,353人	93,500人	93,500人

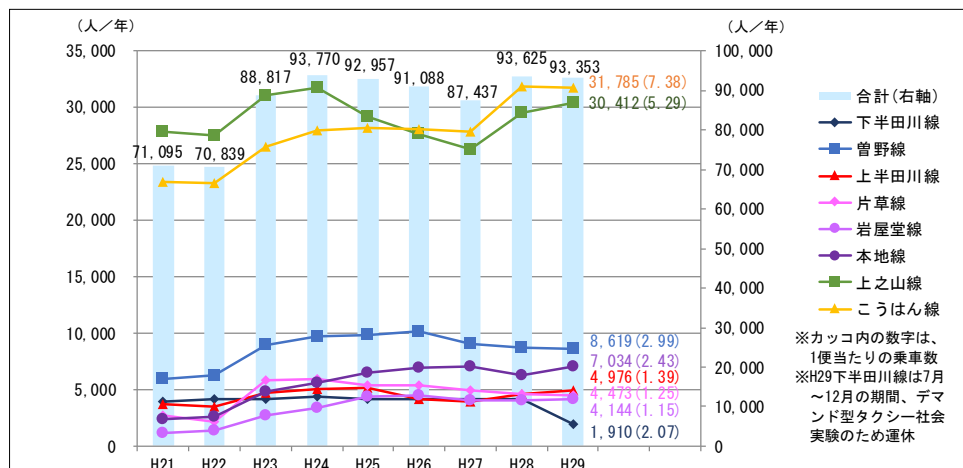


図 コミュニティバスの利用者数の推移 (再掲)

データ取得方法：交通事業者の輸送実績

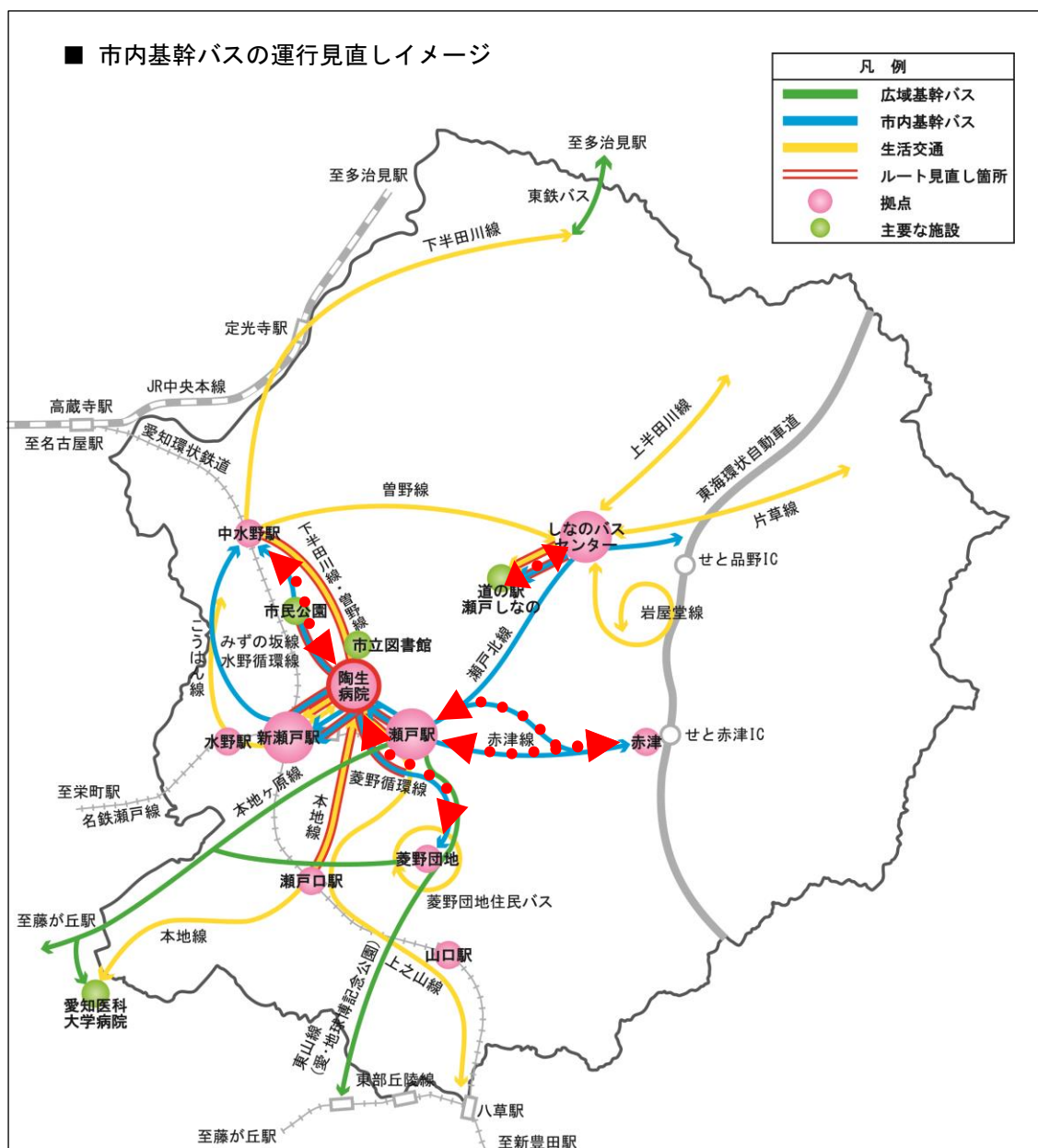
① 市内基幹バスの運行維持・見直し

広域基幹バスと連携して通勤・通学や観光・まちづくりなどにおける利便性の向上を図るため、市内拠点間の交通ネットワークを形成する基幹バスの運行を維持します。

利用実態や人口・土地利用動向、生活利便施設の立地状況などに応じた運行経路やバス停間隔・名称の見直し、鉄道や他のバスとの円滑な乗継を可能とするダイヤ調整等を行い、利便性の向上を図ります。

<実施内容>

- ・ 陶生病院バスロータリーへの乗り入れ（瀬戸北線、みずの坂線・水野循環線、菱野循環線）
- ・ 路線名の見直し（瀬戸北線）
- ・ まちづくり、観光振興における運行経路の見直し、道の駅瀬戸しなの乗入検討（瀬戸北線）
- ・ 小中一貫校開校における運行の見直し（赤津線）
- ・ 運行経路の見直し、市民公園前バス停の移設（みずの坂線・水野循環線）



2. 数値指標の考え方

指標① 公共交通の満足度

指標①は、市民アンケートにより公共交通が日常生活を送るうえで満足できる交通手段だと「思う」及び「やや思う」の割合を表しています。

目標値は、第6次瀬戸市総合計画における指標を参考に、60%を目指すものとします。

指標	現状値 (2016年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
公共交通の満足度	48.6%	55%	60%

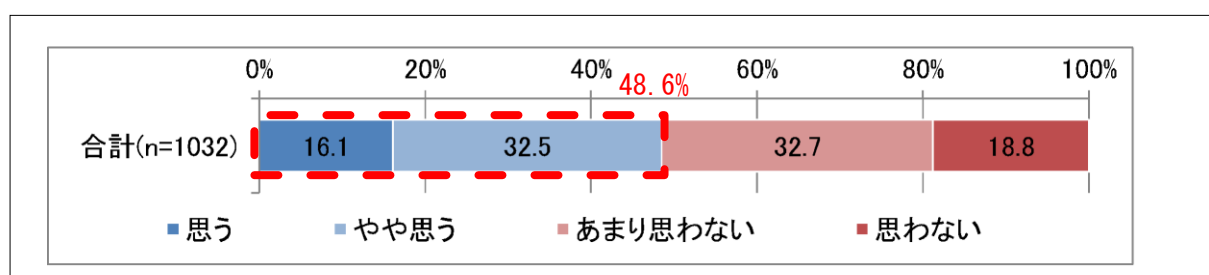


図 公共交通に対する満足度 (無回答を除く)

出典：瀬戸市公共交通に関する市民アンケート (H28.12)

指標② 鉄道の利用者数

指標②は、第6次瀬戸市総合計画における指標である年間の駅利用者数を表しています。

目標値は、第6次瀬戸市総合計画で目標としている将来人口の推移を踏まえたうえで、直近2年間の増加率を参考に年間の駅利用者数を設定します。

指標	現状値 (2017年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
年間の駅利用者数	7,921,576人	8,076,000人	8,141,000人

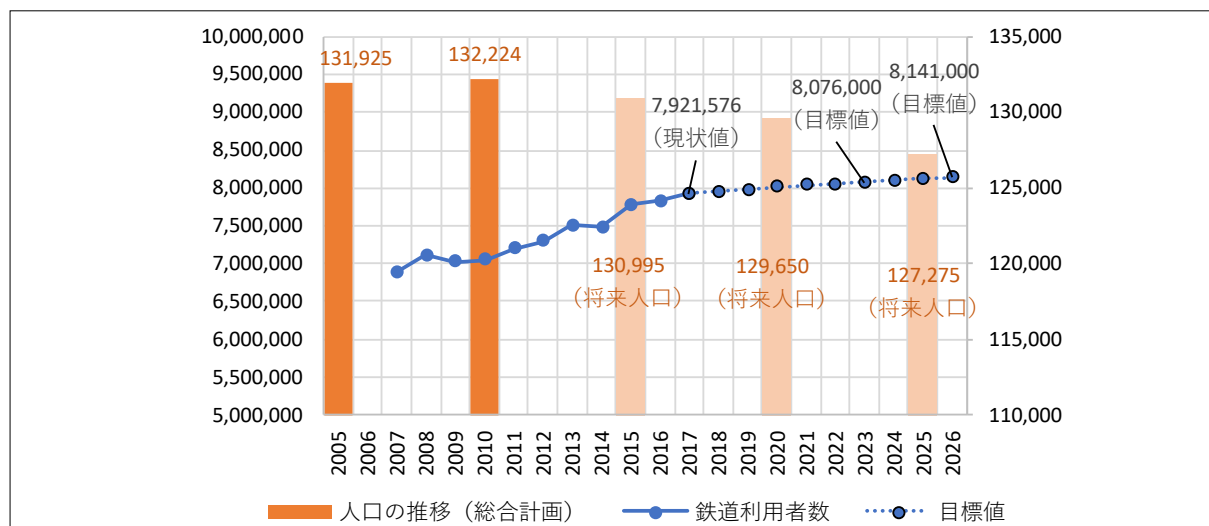


図 年間の駅利用者数

指標③ 公共交通 300m圏人口カバー率

指標③は、人口減少や高齢化が進展する社会状況の中、鉄道駅もバス停とともに300m圏で人口カバー率を算出する新たな指標となります。

目標値は、多極ネットワーク型コンパクト構造を目指し、拠点周辺の公共交通空白地域を解消し、90%を目指すものとします。

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
公共交通300m圏人口カバー率 (市全域)	87%	90%	90%

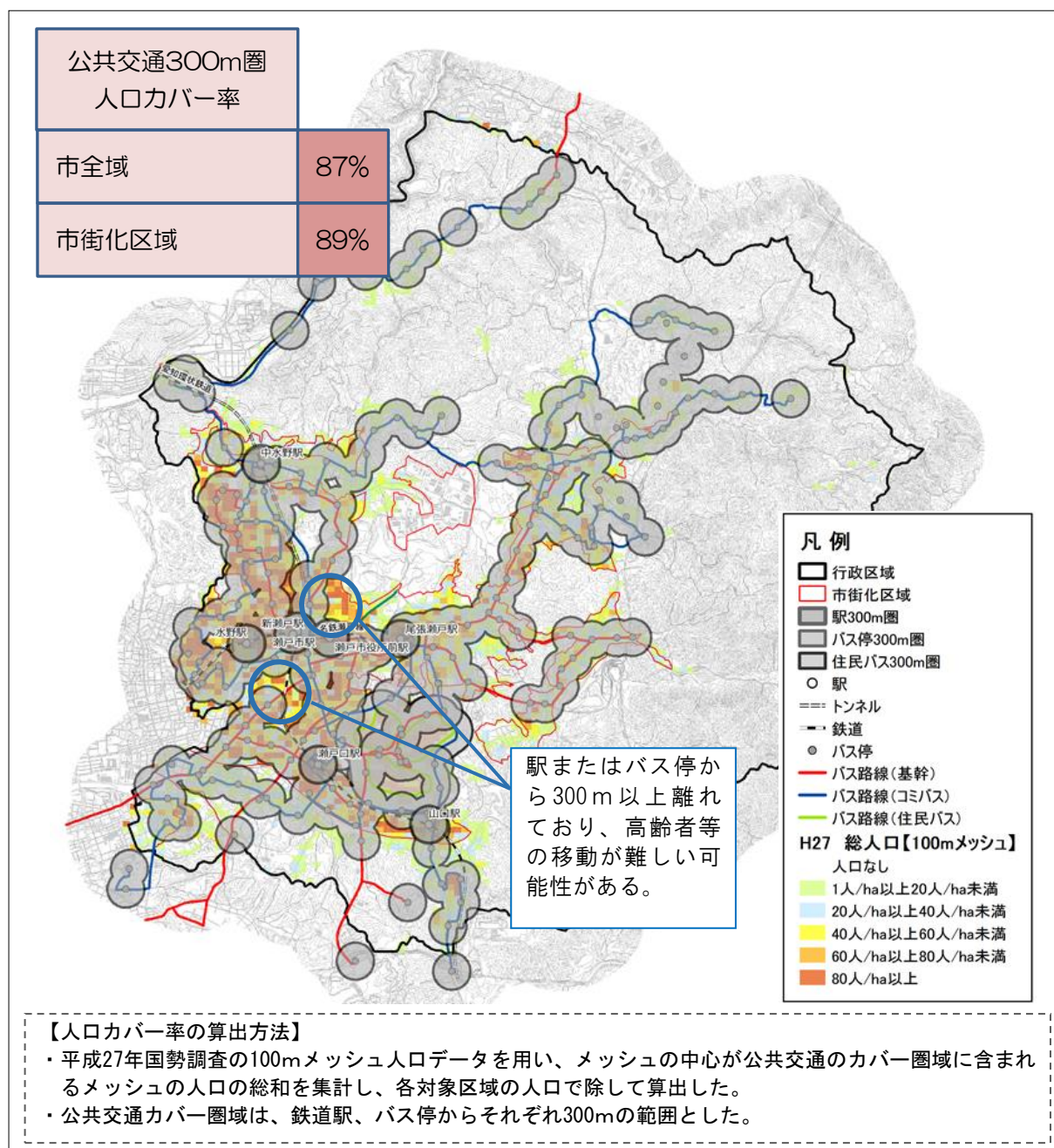


図 公共交通300mカバー圏域

出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

指標④ 市内基幹バスの収支率・利用者数

指標④は、持続可能な公共交通を形成するために、運行経費や運送収入等による市内基幹バスの収支率と利用者数を指標としています。

目標値は、沿線地域の人口減少を踏まえ、現状維持を目指します。

(1) 収支率

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
市内基幹バス収支率	53.5%	54%	54%

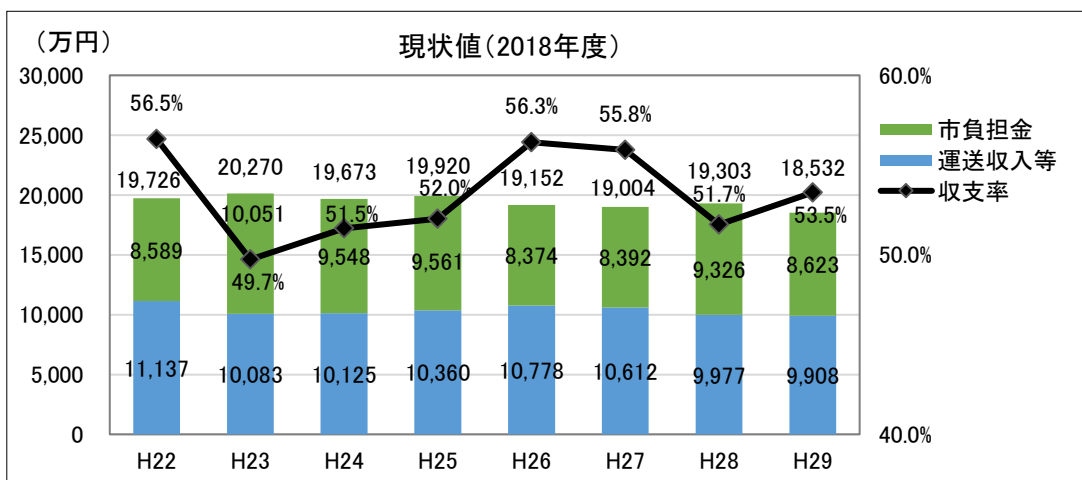


図 市内基幹バスの収支の状況の推移 (再掲)

出典：瀬戸市資料

※(1) 収支率における市内基幹バスは、瀬戸北線、水野循環線・みずの坂線、赤津線を対象とします。

(2) 利用者数

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
市内基幹バス利用者数	708,524人	708,500人	708,500人

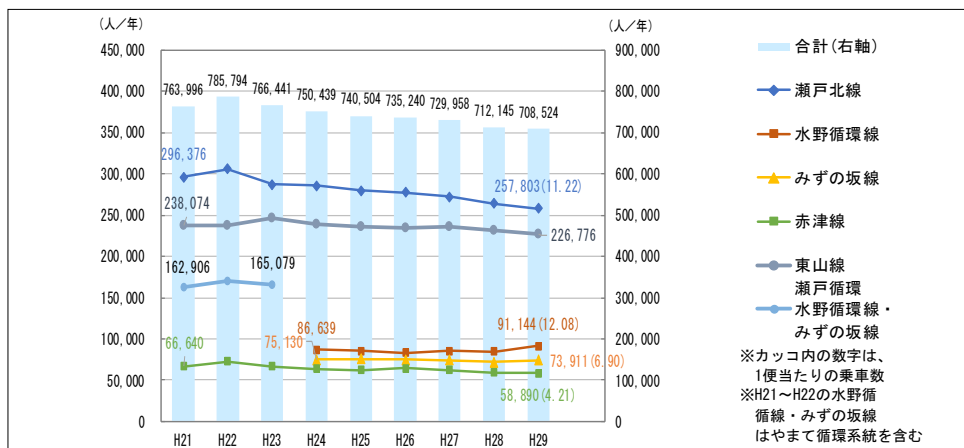


図 市内基幹バスの利用者数の推移 (再掲)

出典：瀬戸市資料

指標⑤ コミュニティバスの収支率・利用者数

指標⑤は、持続可能な公共交通を形成するために、運行経費や運送収入等によるコミュニティバスの収支率と利用者数を指標としています。

目標値は、沿線地域の人口減少を踏まえ、収支率、利用者数ともに現状維持を目指します。ただし収支率については、収支率が比較的低い路線もあるため、拠点周辺、郊外部ごとの目標も設定します。

(1) 収支率

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
コミュニティバス収支率	14.7%	15%	15%
拠点周辺の収支率	維持		維持
郊外部の収支率	向上		維持

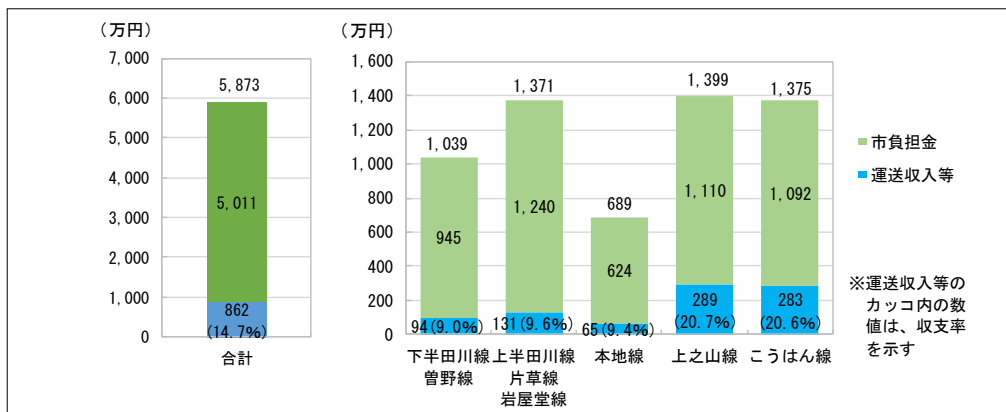


図 コミュニティバスの収支の状況

(平成29年度の路線別運行経費の内訳) (再掲)

出典：瀬戸市資料

※拠点周辺の路線は、上之山線、こうはん線とします。

※郊外部の路線は、下半田川線、曾野線、上半田川線、片草線、岩屋堂線、本地線とします。

(2) 利用者数

指標	現状値 (2018年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2026年度)
コミュニティバス利用者数	93,353人	93,500人	93,500人

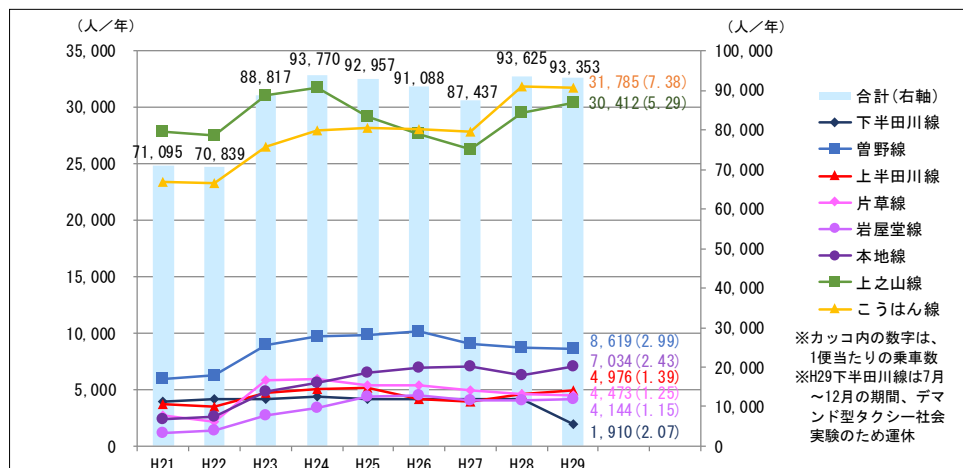


図 コミュニティバスの利用者数の推移 (再掲)

出典：瀬戸市資料